

しまぬき む めいろくめんどう
島貫の無銘六面幢

市指定有形文化財（建造物）

沖郷地区の島貫地区にある島貫墓地の北隅に六面幢（※1）が建てられています。この六面幢はもともと墓地から100m程北の丸堤の南にあったものです。

高さ約182cm、周囲が約283cmあり、中央部がやや膨らんだ堂々とした石幢です。各面の上部には仏様が彫られています。この仏様は6種類の地蔵様で「六地蔵」とも言われます。

仏教では、死者が旅立つあの世には6つの世界「六道（※2）」があり、そこで生まれ変わるとい^{ろくどう}う六道輪廻^{ろくどうりんね}という信仰があります。その旅先で成仏できるよう救済してくれるのがお地蔵様です。六地蔵には、それぞれの世界で救済されたいという願いが込められています。こうした六地蔵は、六道の入り口（現世とあの世の境）のように「境」を示す場所として、村外れ（日常生活と外界との境）に立てられました。お地蔵様が村外れにある理由がここにあります。

島貫墓地周辺の地名は「六角」で、六面幢の存在を示していますが、銘文（石等に刻む文）がなく、彫り込まれた六地蔵も不明瞭で、建てられた年代等の手がかりはありません。しかし六面幢の様式から鎌倉末期から南北朝期のものとみられます。

鎌倉時代末期、この周辺には^{きょうぜんじ}教全寺という寺院があり、近くに集落があったとみられます。しかし、伊達文書など室町時代の文献には「島貫」という地名はなく、島貫地区は郡山地区の一部だった可能性があります。郡山は古代から四方に道路が走り、六角は萩生田・蒲生田地区を経て北へ行く道の、当時の郡山村の北はずれでした。そこで六面幢が建てられたのでしょう。



※1=幢とは、縦に細長い旗のことで、幢を6枚合わせた六角形を石で型どったもの。

※2=天道、人間道、修羅道の三善道と^{ちくしょう}畜生道、^{がき}餓鬼道、地獄道の三悪道があり、生前の行為の善悪によって六道の行き先が決まるとされる。

南陽市文化財保護審議委員 佐藤鎮雄
平成30年7月1日号 市報なんよう掲載